

おわりに

めん羊を飼育している人であれば、本書のタイトルである「子羊の早期離乳と人工哺育」を経験されている方も多いと思います。筆者自身、めん羊業務に携わる中で、母羊に見捨てられた子羊や哺育途中で母羊をなくしてしまった子羊の母親代わりにならざるを得ない状況に何度も直面し、その度に、どうすればこの子羊達を1頭の落ちこぼれも出さずに育てることができるのだからかと模索して参りました。

家畜改良センター十勝牧場では2年3回繁殖技術に取り組んでおり、生まれた子羊については全て早期離乳を行っています。また、子羊の損耗を減らすため、分娩後の母羊の状態がおもわしくない子羊については迷うことなく人工哺育に切り替えることにしています。

これまでに数々の失敗も経験しましたが、現在では通常の自然哺育と比べても全く引けを取らない結果が得られるようになり、「早期離乳」と「人工哺育」が技術的に確立されたと確信するに至り、今回のマニュアルを作成することになりました。

しかし、実際にこれまでの経験を振り返りながら文章にまとめてみると、早期離乳にしても人工哺育にしても、これらは決して特殊な管理技術ではなく、子羊管理の基本中の基本であることに気がついたのです。

母羊のいない子羊や効率性のために哺乳期間を短縮させられた子羊も生理的には他の子羊と何も変わることはありません。重要なことは、母羊に代わって、人間がどれだけ子羊の生理にあった管理を行うことができるのかということであり、そのためには基本に立ち返って、めん羊という動物をよく理解すること、めん羊の立場でものを考えることが大切であるということに改めて実感した次第です。

最後に羊飼いの心構えを紹介し、本書の締めくくりとさせていただきます。

『羊を飼うものは、まず羊になることである。』

平成19年9月

家畜改良センター十勝牧場

業務第二課 課長補佐 河野博英

家畜改良センター 技術マニュアル 9

子羊の早期離乳と人工哺育

著 者／河 野 博 英

発 行／独立行政法人 家畜改良センター
企画調整室 企画調整課

発行日／平成19年9月

平成21年3月 再刊

発行所 社団法人 畜産技術協会
〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9
電 話 03-3831-3195
FAX 03-3836-2302